



牛牧小だより

令和7年1月号

瑞穂市立牛牧小学校



2026年 午年



あけましておめでとうございます



今年は午年です。午（うま）は昔から躍動、成功・勝負運を象徴する干支とされています。まっすぐ前へ進む力強さから、事業が発展する年、努力が実を結ぶ年ともいわれます。また、馬は人の暮らしを支えてきた大切な存在で、家族を守り、幸せを運ぶ縁起の良い動物として親しまれてきました。

新年を迎えるというのは、ただ1日、日付が変わっただけなのに、身も心も昨日とは違った感じになりませんか。「あらたまる」という言葉の通り、子どもたちは、その心境の変化を何かしらの決意に変えています。新たな気持ちで新年をスタートさせていこうとしているのが表情や声からうかがうことができました。

今日から学校では後期後半です。1月は「行く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」というように登校日数が少ないこともあります。月日が過ぎるのが大変早く感じられます。しかし、この時期は新学年への橋渡しの時期です。「ありがとう集会」「卒業式」「修了式」と、ひとつひとつの行事を通して、学年でつけた力を振り返り、新学年への準備をする大切な時期でもあります。一日一日を大切に今学年を充実して過ごせるよう願っています。

最後になりますが、今年もご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

希望に満ちた未来へ向かう令和8年

大晦日に除夜の鐘を聴いたでしょうか。「除夜」というのは、大晦日の夜の事です。1年の最後の日に、古いことを除き去り、新年を迎えるために、108つ「除夜の鐘」を鳴らします。なぜ108つなのか、理由は諸説ありますが、仏教の世界では、人には108の煩惱があると考えられてきたからだそうです。煩惱とは、人の心を惑わせたり、悩めたりする働き（心の乱れ、汚れ）をいいます。108つ鐘を鳴らすことで、煩惱を祓うことができると考えられていきました。（「四苦（ $4 \times 9 = 36$ ）」「八苦（ $8 \times 9 = 72$ ）」をたすと108になる）本来は、厳しい修業を積んだ人が煩惱を祓うことによって悟りを開くことができるという意味があるのですが、修業を積んでいなくても、心の乱れや汚れを祓う力があると信じられているため、今でも続いているのだそうです。

子どもたちも4月に「こんなことをがんばろう」「これを続けていこう」という願いや思いをもって1年をスタートしてきました。しかし、もしかしたら、少しずつ気が緩んで『まあいいや』という気持ちがでたり、仲間のことよりも自分のことが優先になってしまったりしたことがあったかもしれません。新年の初めにあたり、もう一度自分を見つめ、よくなりたい自分を前に押し出してスタートができる、そんな力が「除夜の鐘」にはあるのかもしれない。

また、正月の「正」という字には、「あらたまる、きちんと」という意味があります。「正月」とは「あらたまることができる月」です。古来より日本人はそうやって年の初めを節目とし、自らを振り返りながら次のステップを見つめ歩んできたのでしょう。後期後半は1年のしめくくりです。そしてさらに飛躍するチャンスがあるということです。今まで積み重ねてきた力をいかし、さらに向上していくよう支援をしていきたいと思ひます。